



福島ロータリークラブ会報

【事務所】福島市栄町 5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日 12:30
 【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011
 【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com



<http://www.f-rotary.com/>

本日のプログラム

新会員スピーチ 副会長スピーチ

JR福島駅 駅長 **佐藤豪一** 会員
 (株)アドプロダクション 代表取締役会長 **浦部 博** 会員

会長あいさつ

第 17 回会長挨拶 古俣 猛 会長



12月も半ばになってまいりましたが、未だに初雪がなく、今年は寒くなるとの予報が当初ありましたが、もしかしたら暖冬なのでしょうか？地球温暖化の影響なのか長期予報も難しいようです。

さて本日は、メンター制度についてお話をいたします。まず「メンター」とは何か、一般的な解釈としては、必要な知識や情報を提供する、適切な助言をする、教育や指導を行う、必要な援助を行う、リスクの大きい状況から保護する、などで、ロータリーとしては My ROTARY の中に新会員オリエンテーションという部分がございますが、次のように載っております。

新人や後輩の相談に乗ったり、助言をする人を「メンター (Menter)」と言い、メンターがいれば新会員がいち早くクラブになじみ、活発な会員となります。メンター選びは、色々な関心や趣味、職業など新会員との共通点があり、ロータリーの知識が豊富であること、そして新会員のために時間を費やすことのできる人を選ぶ、となっております。また当クラブの委嘱状には○例会ははじめクラブの会合に共に出席する。○「ロータリーの基本」について判りやすく解説する。○家族にロータリーを理解してもらう機会をつくる。○何時でも個人的な相談に応じる。○可能な限りクラブプロジェクトに参加するよう勧誘する。と記載されています。また PETS の際の資料会長編にも、新会員にはメンターを付けるようにと、強く推奨されています。

以上メンター制度についての概念そして役割については、皆様にはご理解をいただけたと思いますが、もちろん大切なのは、これらを新会員に対して実行することです。過去にはカウンセラーという名称での委嘱状もございました。基本的な概念や役割については基本同じだと思いますので、どうか過去・現在も含めて、委嘱された会員の皆様には、もう一度改めて新会員の方々にお声掛けをしていただければ、今後の当クラブの会員増強・維持にもつながることと思いますので、宜しくお願いをしまして会長挨拶とします。

例会次第

- 開会点鐘 古俣 猛 会長
- ロータリーソング「我等の生業」
ソングリーダー 渡邊又夫 会員
- 「四つのテスト」唱和 黒崎浩一 会員
- お客様並びに来訪ロータリアン紹介
- 米山功労者伝達
- ロータリー財団表彰伝達
- 会長あいさつ 古俣 猛 会長
- 食事
- 幹事報告 相良元章 副幹事
- 各委員会報告
 - 広報マルチメディア雑誌小委員会
「友」12月号紹介 高橋雅行 委員
 - プログラム・ニコニコBOX小委員会
ニコニコBOX担当 勝見浩二 委員
 - プログラム・ニコニコBOX小委員会
プログラム担当
1月プログラム紹介 氏川守義 小委員長



◎本日のプログラム

開会点鐘 古俣 猛 会長

例会プログラムのご案内

12月15日(木) 辰巳屋

会員スピーチ 中尾根康宏 会員 日本銀行福島支店長

12月22日(木) 辰巳屋

「年忘れ家族会」
 会費：会員・夫人・大人／3,000円 子供／無料
 * 29日(木)は理事会承認休会(2回目)となりますので
 ご了承願います。

1月4日(水) 辰巳屋

市内クラブ合同新年例会 ホスト 福島南RC

1月5日(木) 祝日の週のため休会

1月12日(木) 祝日の週のため休会

1月19日(木) 辰巳屋

クラブ協議会 12:30 ~
 * 下半期委員会活動について委員会毎に協議をして頂きます。
 * 1月誕生祝い
 1月理事会 13:30 ~



新入会員スピーチ

JR福島駅 駅長

佐藤 豪一 会員

東日本旅客鉄道株式会社、福島駅長の佐藤でございます。本日は、貴重なお時間を頂戴し、誠にありがとうございます。歴史ある福島ロータリークラブに入会させていただき、あっという間に約6ヶ月が経過しました。皆様の前での初めてのスピーチでございますので、自己紹介、そして弊社の震災からの復旧状況等についてお話をさせていただきます。

初めに自己紹介ですが、私は、昭和34年3月、郡山市に生まれました。父が国鉄職員であり、転勤が多く、郡山で生まれた後、岩瀬郡鏡石町、山形県米沢市、福島市、会津若松市、郡山市、そして仙台市へ移り住みました。

小学校入学が、山形県米沢市板谷の小学校でした。ちなみにこの板谷は、奥羽本線の山深い位置に属したところあり、最高で38 / 1000のきつい勾配のあるところで、当時は、スイッチバックで列車が山を登っていたところでした。自然に恵まれたところであり、野をかけ山をかけ、冬は、雪が深く屋根まで届くぐらい積雪があり、屋根からスキーで滑って遊び、最も自然の中で生活した約2年間でしたが、板谷小学校入学後約4ヶ月で福島へ転校となりました。

福島市では、野田町の社宅に住んだ関係で、三河台小学校に入学し、小学校3年の夏休み前まで住んでいました。福島での思い出は、板谷小学校では音楽の時間に、ハーモニカを演奏することはありませんでしたが、福島では、ハーモニカを演奏する時間があって、なかなか覚えられず、家でハーモニカの特訓をした思い出があります。また、田舎の小学校から、都会の小学校へ転向すると、学習の進み具合が異なっていて、追いつくまで悔しい思いをしました。

次に住んだのが会津若松市で、転校した時に、何がイヤかといいますと、登校初日、朝、一人で自分のクラスに入った時の、アウェーな雰囲気でした。しかし、会津若松のその小学校は、ほんの一瞬だけで、クラスメートがすぐに周りに集まってきて「どこから来たのか」「どこに住んでいるのか」等、すぐに溶けこみやすい雰囲気土地柄でした。また、学習の進み具合では、福島の方が進んでいたため、少し優越感を感じました。会津若松には、約1年しかおらず、4年生の夏には郡山市に転校

となり、高校を卒業するまで郡山に住んでいました。高校は、歴史ある安積高校に入学、卒業すると父親の転勤のため仙台へ移りました。

昭和57年、大学を卒業後、4月に国鉄に入社しました。夜、夜中に電話で呼び出されて、仕事に出かけていく姿や、労働組合との関係に神経をすり減らしている父の姿を見ていたため、国鉄には関心がなく、当時右肩上がりの自動車会社や電機会社へ希望していましたが、結局は家族の強い勧めにあい国鉄に入社することになりました。しかし、当時の国鉄に夢はなく、「巨額な赤字」「親方日の丸体質」「ヤミ手当」「ポカ休」「ブラ日勤」等が問題視され、世間では週刊誌や新聞に「国鉄労使国賊論」などという言葉や記事が毎日のように掲載されていた時期でした。入社当時、6ヶ月間研修期間がありました。通常であれば、新たな志を胸に、希望に燃えた新入社員に対し、その会社の一員として自覚を持たせる研修であるはずなのに、研修センターの講師からは、「今からでも遅くない。再就職先を探したほうが良い」という耳を疑うような言葉を聞きながら、将来に不安を持ちながら、研修期間を過ごしました。

研修期間が過ぎ、その年の10月、仙台市にある新幹線車両をメンテナンスする車両センターに配属となりました。世界に冠たる新幹線車両のメンテナンス業務であり、また、昭和57年6月23日に東北新幹線が開業したこともあり、注目された職場でした。ここでは、新幹線車両のさまざまな検査方法を経験後、効率的な検査方法や検査周期延伸等について、あるいは、高速走行試験班で(当時の東北新幹線最高速度210km/h)速度275km/hで走行するための研究に取り組みました。しかし、周囲では、再就職先を探す者や教員試験を受ける者など、落ち着かない環境に変わりはありませんでした。

昭和61年3月、電車の運転士となるよう発令を受け、そのための教育を受け、運転士試験合格後8月頃から翌年2月頃まで電車の運転士を経験しました。乗務した線区は東北本線、郡山～一ノ関間、常磐線仙台～原ノ町間、また、仙山線も乗務しました。運転士の仕事は、たいへん不規則で、出勤時間、退勤時間が日々異なり、常識的な食事時間のない勤務もありました。また、夜中、約3時間仮眠をとったあと、夜行の特急電車に乗務し、また約2時間仮眠しては通勤電車に乗務するというハードな勤務もこなしていました。場合によっては、深夜働いて日中家にいるので、近所の人には「毎日休みでいいわね」といわれた時もありましたが、実際は、ハードな勤務でした。しかし、自分が運転操縦する電車に多くのお客さまが乗車されている様子を見ると、社

会に貢献しているという充実感を感じましたし、乗務員手当や夜勤手当等が基本給のほかに付加され、車両のメンテナンスをやっていた時よりも、ずいぶん多く給料にはねかえってきましたので、運転士の仕事に魅力を感じていました。

しかし、国鉄からJRへ移行する直前の昭和62年2月ごろ、急遽、企画部門で若年退職者(官公庁への再就職)が出るとの事で、私が急遽その後任に指名され、運転士をやめざるをえませんでした。今度の部門での業務は、減多にあっては困る、例えば何故列車同士が衝突したのか、何故列車が脱線したのか、何故赤信号を見落とし冒進したのか、何故速度超過したのか、ハードが原因なのか、それともヒューマンエラーなのか、ルール違反なのかという、事故や事象が発生したその原因、そして背後要因は何か、再発させないために、どのような対策をたてなければならないのかといった内容でした。人のミスを探る仕事でもあったので、当然周りからは煙たられる仕事で、真実を探るまで時間と労力、忍耐力が必要とされる仕事でした。また、ちょうどこの頃は、国鉄からJRへ移行するその過渡期であり、旅客会社に残るのか、貨物会社へ移らなければならないのか、それとも官公庁へ移ったほうが良いのか等、一人ひとりが国鉄改革という大きな波にのまれ、仕事に集中しづらい環境であり、国鉄最後は、ヒューマンエラー等が多くなった時期でもありました。

しかし、JRへ移行するとこれまでの苦労や、不安は嘘のように払拭され、社員一人ひとりが新たな出発点であることを自覚、仕事へ集中できる環境となり、ヒューマンエラーは少なくなりました。また、事故防止活動も、国鉄時代とは変わって、実態をよく把握せずに建前論で物申す上位機関から、「〇〇しなさい」というトップダウンから、現場第一線の社員自ら、「△△してみよう」というボトムアップに変わり、社員一人ひとりの安全への意識も自然と高まっていきました。

新会社となり私の仕事も現場第一線の仕事から、企画部門での仕事にかわっていきました。「安全」の仕事の他、業務の効率化推進、人事異動関係業務、団体交渉関係業務等を経験し、企画部門を8年経験後、現場の管理者と企画部門をいったりきたりで、今年で鉄道人生34年、内訳は現場17年、企画部門17年となっています。

これまでの経験の中で、忘れてたくても忘れられない、忘れてはならない出来事と言えば、東日本大震災です。当時私は、仙台支社で運転士や車掌を教育指導する立場の責任者でした。地震発生後は、大津波警報が発令され、沿岸沿いを走っている線区もあったので、列車に乗車されているお客さまや乗務員の事が心配でした。列車無線や携帯電話等も通じないため、安否確認ができ

ない列車が2本あり、1本の列車が仙石線野蒜～陸前小野駅間を走行していた列車、もう1本の列車も仙石線東名～野蒜駅間を走行していた列車で、津波で被災したものと推定され、徹夜で情報収集していました。野蒜～陸前小野駅間を走行していた列車は、翌日のニュースで災害ヘリが上空から映した映像に、小高い場所に津波の被害を受けていない列車と、その周りに人影があったのを見て、無事を確信しましたが、しかし、東名～野蒜駅間の列車は、津波に流されたとの情報もあり、希望の灯が消えようとしていたその時、音信が途絶えていた列車の運転士の携帯電話につながり、お客さまを避難させた事、そして車掌も無事であることを部下から報告を受けた時は、周りからも歓声が上がリ、私も思わずガッツポーズをとり、「無事だ！よかった」と叫んでいました。

その後私は、列車に運用する車両と運転士、車掌の運用を計画する担当の責任者でもあり、日々復旧工事に伴い、列車の運転区間が拡大するに伴って、運転する車両そして運転士、車掌の運用計画にあけくれました。とにかく、地震でダメージを受けた設備復旧をし、安全を最優先にできるだけ早く全線を開通をさせることだけを考え、休むこともなくその事に打ち込んでいました。しかし、現実は一層厳しく、3月11日以降も余震が続き、特に4月7日の余震では、これまで少しずつ運転再開してきた線区も、ふたたび運転中止となり設備点検、車両や乗務員の運用を変更を余儀なくされ一進一退が続き、幾度も心が折れそうになりました。

ここで、当時の復旧状況の一部について、振り返ってみますと、奥羽本線では福島～新庄駅間は4月11日に開通しました。(震災から31日後)また、東北本線福島～安積永盛駅間は4月10日に開通、福島～仙台駅間は4月12日に開通し、東北本線全線開通は4月21日でした。(震災から41日後)

一方、東北新幹線では、福島～那須塩原間の開通が4月12日、福島～仙台駅間が4月25日、全線開通が4月29日でした。(震災から49日後)電化柱が倒れ、あるいは折れ曲がり、レールは歪み、震災当時のあの惨状を見れば、よく49日で運転再開できたと思うのが実感であり、また、高速運転中の新幹線が犠牲者を出さなかったのは、これまでの震災の教訓から得た知識や技術を蓄積した結果だと感じています。高架橋の耐震補強、脱線時にレールから車両が逸脱しない仕組みの整備、地震発生時に、大きな揺れが来る前に新幹線にブレーキをかける仕組み「早期地震検知システム」等、新幹線の安全を守るための仕組みの精度を、今後も継続して高めたいかなければと思っています。

また、震災当時、約400kmにわたり列車の運転を見

合わせていましたが、順次復旧を進め、今年9月1日現在で、約186kmで鉄道での運転を再開、また、117kmでバス高速輸送システム(BRT)を運行しています。そして、今月10日は、その東日本大震災の時に、津波による被災で運転中止を余儀なくされた、常磐線相馬～浜吉田駅間が開通する(約5年9ヵ月ぶり)ダイヤ改正となっています。沿線自治体の『まちづくり計画』にあわせて、内陸に移設した駅もあり、新しいルートで運行を再開します。沿線復興の加速化に役立つ事を信じてともに、2019年度末まで、常磐線全線運転再開に向けて取り組んでまいります。

さらに、地域を元気にするため、幅広い産業への生産波及効果、雇用の拡大効果を生み出す可能性を秘めている『観光』に力を入れていく事が重要であり、東北6県を一巡した『デスティネーションキャンペーン』は、被災地復興の推進力となったと思いますし、今年12月から『行くぜ東北。SPECIAL冬のごほうびキャンペーン』等、東北6県をはじめとした自治体、旅行会社、観光関係者、地元の皆さまと一体となって冬の東北の魅力を訴求するキャンペーンを展開し、観光客を東北へ誘客する取り組みをさらに強化するとともに、引き続き、福島の復興、発展に少しでもお役にたてるよう取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますが、お手もとに配布させていただいたパンフレットですが、「リゾート列車の旅」「フルティアに乗って仙台へ行こう」「行くぜ、東北。冬のごほうび」の3点になります。ご利用いただければ幸いです。よろしく願い致します。本日は、貴重な時間をいただきまして、誠にありがとうございました。

本日のプログラム②



副会長スピーチ

(株)アドプロダクション 代表取締役会長
浦部 博 会員

今年度、副会長に指名されました浦部博です。

会社事情で、9年間休会をいたしまして、3年前、平成25年に再入会した訳ですが、なぜか新人スピーチの機会がありませんで、特に役割もなく、いきなり副会長指名ということで、実は、当人が些かびっくりしております。しかし、お引受けしたからには、まず、みなさんに私を知ってもらうことから、始めなければいけないだろう…と云うことで、プログラム委員会さんにお

願いしまして、新会員スピーチに割り込みをさせていただきました。

出身は東京ですが、福島で広告会社を興しまして50年になりますから、今では完全に福島人だと思っております。昭和11年生まれですから、今年80歳になりまして、当クラブでも(高年令組)ということになりました。

ロータリー歴ですが、最初の入会は1984年(昭和59)です。会社の事情で退会したのが2004年ですから、その間約20年ロータリーに在籍をいたしました。入会した年度は、沖電気の佐藤盛男社長が会長で、なんと阿久津PGがクラブ幹事の年度でありました。

当時は福島・山形が同じ253地区で、当クラブの田中善六ガバナーの翌年度に年次大会が、山形で行われました。福島クラブが大挙して山形に参加した訳です

が、実に誇らしい、素晴らしい大会であったと記憶しております。

当時の例会場は、中合の6階食堂でした。当時は若手でしたから、会報委員会を皮切りに、以来ほとんどの委員会を経験いたしました。

平成8年の白岩康夫 会長年度でクラブ幹事をやりまして、平成10年、同じく白岩分区代理(G補佐)年度に 第一分区幹事を担当いたしました。平成14年阿久津ガバナー年度では、地区の副幹事を担当いたしました。これは素晴らしい体験で、どこに随行しても、阿久津ガバナーのスピーチは重厚で、本当に素晴らしい内容でありました。

会員に向けた温かい目、説得力・人格は、だれが見ても、田中Pガバナー以降の、歴代ガバナーの中で、群を抜いていると尊敬しております。

わたくしのプロフィールですが、簡潔に申し上げます。ひとつは(会社)で、ひとつは(信夫山)ということになります。

(趣味)ですが、実は、わたくしは科学オタクというか、あらゆる森羅万象について、興味があります。先端情報についても、常に興味深々ということで、地球科学・宇宙・生命・ロボット工学、etc 興味が尽きません。テレビの科学番組はすべて見ます。

それが、うまく会社の業務であるとか、信夫山の研究と結びついておまして、まあ、そういう意味では幸せな人間なのだろうな、と思っております。プラス油絵を少々、文芸では和歌短歌・詩に傾倒しております。親しかった脇屋隆治P会長が、すぐれた短歌を書かれおり、同時に物理学に傾倒されておりました。中村忠司P会長は、透徹な、すばらしい詩をお書きになっています。そんな訳で、私はロータリークラブには口で表しきれない感謝と、思いを持っております。

本当に素晴らしい仲間・先輩との出会いがありました。ほんとうに、「なんて優秀な人たちばかりだろう、」と思っております…。

会社は、株式会社アド・プロダクション、という広告代理店をやっております。昭和41年、30歳で福島に参りまして、友人と二人で広告会社を作りました。福島の広告会社では草分け的存在で、多くの皆様にお世話になりまして、現在に至っております。いわゆるデザイン・プロダクションがスタートですが、本格的にCI開発を勉強しまして、みなさん多分見覚えのある、有力な地元企業様のイメージ構築を、かなりお手伝いしました。

TV各社と共にバブル期に成長しまして、山も谷もありましたが、現在は、本業の広告業務と合わせまして、イベント関係では、いわゆる科学系イベントが得意分野です。一例では、子供向けに、駅前の(こむこむ)の

企画イベントを数多く手掛けております。

会社は、最後にパートナーの大きな失敗と急逝がありまして、回復に13年かかりました。4年前にようやく整理が終わりまして、若い世代に社長を引き受けてもらうことが出来ました。大変重く考えていることは、ここでもし、私がロータリーの職業倫理を学んでいなかったら、会社を立て直すことは出来なかっただろう、ということです。ロータリーの理念と精神が、私を支えてくれたと思っております。

わたくしのライフワークである信夫山をお話するところでしたが、時間が無くなってしまいました。なにしろ、街の真ん中に孤立している里山ですから360度の景観があります。自然環境も豊かで、信仰の山として、いにしえからの歴史があり、数々の史跡・物語がある。こんな珍しい、豊かな資質を持っている山は、日本中探してもなかなかありません。また、ぜひ次の機会をいただいて、みなさんに信夫山の謎と魅力をご紹介できれば、と考えております。

本日はまことに尻切れトンボな話になってしまいましたが、以上で、私のスピーチとさせていただきます。

委員会報告

「友」12月号の紹介

高橋 雅行 委員

【注目記事】

●縦組みP4-7「わが社の震災復興への取り組み」

震災で会社が困難に直面した時、学生時代に学んだ渋沢栄一先生の教えがよみがえってきたのです。人を大切にして、磨いて、そして生産性を上げれば、絶対、困難を乗り越えることができる。と私は確信しました。震災は私たちに本当に大きな傷跡を残しましたが、人の奉仕、人の親切など、震災によって私たちは勉強させていただいたのも現実です。このことは、非常に大きな力になりました。(序文を抜粋)

〈福島ヤクルト販売(株) 代表取締役会長 渡邊博美〉



【注目記事】

●縦組みP16-17「勝沼富造は日本人初のロータリアン？」

幕末の三春(福島県)に生まれ、後に移民局移民官として「ハワイ移民の父」とも呼ばれた男に、勝沼富造(1863～1950)がいます。過日、当クラブの理事会で、「国際交流協会で勝沼富造の記念碑をつくるが、そこに三春ロータリークラブ(RC)の名前を刻まないか」との提案がありました。インターネットで調べてみると、勝沼富造がホノルルRCの会員だったのではないかと、いうところまでたどり着きました。ならば刻印も意味が出て来ます。(序文を抜粋)

〈三春RC 川又暉之〉



表彰伝達



●**米山功労者伝達**
第10回メジャードナー
(ピンバッジ第10回:ルビー赤)
白岩康夫 会員



●**ロータリー財団表彰伝達**
ポールハリスフェロー
(ピン+2)
渡邊又夫 会員

幹事報告

例会変更のお知らせ

●福島西RC 12日(月)の例会は10日(土)に変更し、午後2時よりボウリング大会、午後6時30分より峰亀にて「新蕎麦を食する会」を開催致します。

その他のお知らせ

- 本日午後6時30分より石林にて社会奉仕委員会が開催されますのでお知らせ致します
- 農林中金さんより、今年もチューリップ球根を頂戴致しました。お帰りの際お一人様一箱ずつお持ち帰り下さい。

私のひとこと

菅野 晋 会員



現在、パリでミシュランガイドの3ツ星を獲得しているレストランは10軒ある。3ツ星を獲得すると、そのシェフは一流の料理人として認められ、スターシェフとしてマスコミに大きく取り上げられ、世界各国からイベントなどのオファーが届く。また営業的にも常に満席となり、日本人を含め海外から沢山の客が訪れる。私はこの秋にパリに行き、今年新たに2ツ星を獲得したレストラン3軒を訪れてみたが、客は数人しかおらず3ツ星レストランの盛況さとは雲泥の差であった。

3ツ星を獲得したシェフは、イベントなどのレストラン外の仕事が多くなり、厨房を空けることが多くなる。そんな中で3ツ星レストランの厨房を支えているのが日本人なのである。現在ほとんどの3ツ星店の副料理長(スーシェフ)を日本人が務めている。勤勉で几帳面で忠誠心が強く、仕事が丁寧な日本人の性格が、副料理長に向いているのだろう。留守がちなシェフに代わって厨房を仕切っているのである。つい30年ほど前、日本人は3ツ星店の厨房に入る事も出来ず、皮むきなどの雑用を無給でしていた。今の状況を見るとまさに隔世の感がある。ちなみに現在パリ市内で、日本人がオーナーシェフの店では、2ツ星が1軒・1ツ星が9軒ある。本場パリでも日本人シェフはすっかり認められているのである。

ニコニコBOX報告 (報告)田沼紀美子 委員

本日のニコニコBOX投入額 39件 ¥92,000 累計 ¥1,295,000

古俣 猛 会長

本日の佐藤会員、浦部副会長のスピーチ楽しみにしております。師走の今月は皆様お忙しいかと存じますが宜しくお願い致します

高橋雅行 会員

本日は「友」の紹介でお世話になります。

大沼健次 会員

5日、弊社原町店が新築オープン致しました。(ネットヨタ福島(株)原町店)今後ともよろしくお願い致します。

相良元章 会員

本日は副幹事として司会をつとめさせて頂きます。一生懸命頑張ります。宜しくお願い申し上げます。

安斎圭一 会員

皆様インフルエンザワクチンはお済みでしょうか? 流行がはじまりましたので、注意して下さい。

三宅 喬 会員

この度、私どもの団体が「地域貢献大賞」を受賞いたしました。

今後この賞に恥じない活動をしてまいります。

氏川守義 会員

この度、当社が(株)福島民報社より「ふくしま産業賞」をいただき大変光栄に思っております。地域の皆様の支えあってのことに感謝しております。

丹治正博 会員

浦部会員、佐藤会員のスピーチに期待して。

反後太郎 会員

本日も宜しくお願いします。

他クラブ会員より/安藤錬雄/安藤健次郎/浦部 博/岡田新也/小原 敏/勝見浩二/加藤義朋/菅野 晋/菅野晴隆/久保田吉朗/黒崎浩一/五阿弥宏安/後藤洋伸/小林仁一/佐藤朋幸/佐藤豪一/佐藤英典/白岩康夫/坪井大雄/鶴丸直久/野原邦亮/信国一朗/幡 研一/船本 勝/辺見哲郎/増子勉/森 洋一/八子英器/八巻恵一/渡邊又夫